

Takaoka Craft Ichiba-machi

高岡クラフト市場街 2016-2017

「工芸都市 高岡の秋」としての発展

富山大学芸術文化学部准教授 有田 行男



「高岡クラフト市場街（いちばまち）」とは

「高岡クラフト市場街」とは、富山県高岡市の中心市街地に於いて毎年秋頃に開催される、クラフトに関する総合イベントです。「工芸都市高岡クラフトコンペティション（以下、高岡クラフトコンペ）」の入賞入選作品を展示販売する「工芸都市高岡クラフト展（以下、高岡クラフト展）」を中心に、これまでの入賞作家が作品を販売する「作家の引き出し展」や、職人の工房を巡る「クラフトツーリズム」、クラフトの器で食事を楽しんで頂く「食とクラフト」などのプログラムで構成されています。富山大学芸術文化学部（以下、芸文）が参画する産学官連携事業として、2012年10月から実施が始まり、5年目となった2016年は9月22日～26日に、2017年は9月22日～24日に開催されました。芸文としては高岡クラフト市場街実行委員会に関わるとともに、「高岡クラフト市場街」というイベントを芸術文化の実践的な学びの場として捉え、2016年度からは来場者の案内を行う「市場街コンシェルジュ」の運営や関連ツールの制作などの学生らの関わりをプロジェクト授業として単位化しています。（「高岡クラフト市場町」としての2017年来場者数はおよそ23,000人）

3大クラフト系イベント同時開催

「高岡クラフト市場街」の開催時期について、2015年までは毎年10月初旬に実施していた「高岡クラフトコンペ」と会期を重ねておりましたが、2016年からは両イベントの開催時期を9月下旬に繰り上げ、「金屋町楽市inさまのこ（以下、楽市）」とも開催時期を合わせた上で「工芸都市 高岡の秋 3大クラフト系イベント同時開催！」と銘打っての同時開催としました。高岡には様々な特長ある活動がありますが、点と点を結び線とする、線と線で面を構成することによって、さらに可能性が広がります。クラフトや工芸に関わるイベントの開催時期を束ねることで高岡の町としての魅力をより一層増し、高岡のブランド醸成につなげていくことが狙いです。

「銅器団地オープンファクトリー」

そして、2017年に至っては「銅器団地オープンファクトリー」が合流するかたちで4つのクラフト系イベントによる同時開催が実現できました。2017年に設立40年を迎える高岡銅器団地共同組合が今後の銅器団地の在り方を協議するため次世代の後継者や若手従事者を中心として「銅器団地の未来を考える委員会」を発足、この委員会での協議の中から生まれたのが「銅器団地オープンファクトリー」です。この委員会には芸文も参画しており「銅器団地オープンファクトリー」の開催時期を「工芸都市 高岡の秋」に合わせることを提言させていただきました。これらのクラフトや工芸に関わるイベントの同時開催によって、これまで以上に多くの方々が高岡のものづくりに触れ、高岡の町を楽しんで頂いたのではないかと思います。（「工芸都市 高岡の秋」としての2017年来場者数はおよそ49,000人）

「高岡クラフト市場街」における新たな取り組み

「高岡クラフト市場街」については、2017年に実行委員会の体制を一新しています。2016年までは実行委員長を松原博（富山大学芸術文化学部 客員教授）が務め、事務局の運営を一般社団法人CREP4が担っていましたが、CREP4の組織解消に伴い、実行委員長を國本耕太郎（漆器くにもと）とし、事務局については実行委員の中核となるメンバーにて分担する運営としました。また、これまで頂いた意見などを踏まえて、いくつかの新しい取り組みを行っています。

まず1つ目は、「高岡クラフト市場町」として代表するものが見え難いという意見を背景に、2017年に誕生した「山町ヴァレー」をメイン会場としました。また、山町筋に暮らす方々のご理解を得るかたちで、山町筋を歩行者天国にさせて頂き、山町筋に多くのプログラムを誘致しました。この施策によって、クラフトファンのみならず、ご家族でお越し頂いた方々にもイベントを楽しんで頂いた模様です。そして、山町筋観光駐車場で開催した音楽とクラフトをつなげるイベント「市場街ナイト」



には、幅広い世代の方々にお越し頂きました。

2つ目は情報発信の強化としてWebサイト (<http://ichibamachi.jp>) をリニューアルし、会場やイベントの情報を検索しやすい仕様に変更しました。Webサイトの構築にあたってはCMS (コンテンツマネジメントシステム) を最大限活用し、各々の実行委員がHTMLなどのWebに関する特別な知識を必要とすることなくプログラムの登録や編集を可能とする環境としました。プログラムの総数が74という数だけに全ての情報を把握することが困難でありましたが、この施策によって、来場者だけではなく、関係者間での情報共有を行うための手段が構築できました。開催日当日に配布するタブロイド版のガイドブックについては好評であるため継続の予定ですが、県外から来られるお客様への事前情報の告知手段としてWebサイトの充実を図る予定です。

3つ目は産学官のさらなる連携として、近隣高校との連携を拡大しました。これまでも連携があった高岡工芸高校や高岡西高校に加えて高岡向陵高校の生徒さんにも参加頂き「市場街コンシェルジュ」を担って頂きました。若い世代の方々に参加いただくことで、地域への活動の浸透が狙いでもあります。

「高岡クラフト市場町」は営業的な利益を目的としたイベントではなく、高岡の町の恒常的な賑わい創出へのきっかけづくり、高岡のブランディングを目的としたイベントです。このため、予算も限られており、準備と運

営の多くの部分を参画者のボランティアに委ねています。芸文の役割としては「市場街コンシェルジュ」などでの連携とともに、関係者の方々のモチベーション作りや、準備と運営を円滑に行う。参画のハードルを下げつつ、継続できるような仕組みの開発と提供という部分にあると考えています。

「工芸都市 高岡の秋」としての発展

年次を経過するごとに大きく発展する「工芸都市 高岡の秋」ですが、2018年については北陸では初開催の「日本遺産サミットin高岡」が合流し、5大イベントでの同時開催が実現します。2016年の3大クラフト系イベント同時開催を協議する連絡会議にて、イベント名称や実行委員会の一本化という議題が繰り返し上がりましたが、イベントの性質や開催の見通しが各々の実行委員会によって異なるため、あえて具体的なイベント名称を設定せず「工芸都市 高岡の秋」という冠としました。当初は一般名称に近いと分かり難いとのご意見もありましたが「工芸都市 高岡」に関わる活動については、幅広く束ねることができる、あるいはその年次に応じての変化を許容できるのではないかと思います。今後も芸文(プロジェクト授業「高岡クラフト市場町」)としては「工芸都市 高岡の秋」として高岡のブランディングに携わっていきたいと考えています。

